

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 大学院環境学研究所、廃棄物マネジメント研究センター

組織目標		達成状況(成果)
(下記3項目について、特に目標とする客観的指標がある場合は、数値データを引用して記載してください。)		
教 育	①組織的な大学院教育改革推進プログラムの取り組みにあわせて、シラバス改善、厳格な成績評価、ピアレビュー、アカデミックカウンセリング等を継続するとともに、GPA制度や電子カルテ(大学院生教育指導カード)の活用方法を協議し、実施する。 ②引き続きフェ工大学院特別コースの教育実施体制について見直しと、充実・強化を図る。 ③組織的な大学院教育改革推進プログラムによる国際連携や持続発展教育(ESD)を導入した教育プログラムの整備を通じて、「学都岡山大学」にふさわしい環境学の大学院教育システムを構築する。	①平成21年度に引き続いて、シラバス改善、厳格な成績評価、ピアレビュー、アカデミックカウンセリング等の大学院教育改革を継続した。また、GPAを奨学金や研究科長賞の選考において利用するとともに、電子カルテを博士後期課程全員と前期課程の大学院GP関連学生(アジア環境再生特別コース履修生)に導入している。 ②平成21年度に検討したフェ工大学院特別コースにおける教育体制強化のためのカリキュラム改正を実施し、平成22年度受け入れの4期生から適用した。また、平成22年4月に第2期生8名が岡山大学に編入し、全員が博士前期課程を修了し、第2期生に対する教育を予定通り終了した。 ③平成20年度に採択された大学院GPに基づく「アジア環境再生特別コース」に博士前期課程学生21名を受け入れ、循環型社会形成学と持続発展教育(ESD)を融合させたカリキュラムを実施した。また、環境科学技術シンポジウム2011、第3回アジア環境再生ワークショップ等の国際会議を主催し、環境学及び持続発展教育(ESD)分野における国際拠点機能を強化した。
	達成度: ④ 3 2 1	
研 究	①廃棄物マネジメント研究センターを中心として、21世紀COEプログラムの成果を集積するとともに、平成22年度特別経費として採択された「学官パートナーシップによるアジア・太平洋諸国を対象とした廃棄物マネジメントの実践的教育研究」を推進し、廃棄物学に関する先端研究と国際交流の促進を通じた研究教育拠点の強化を図る。 ②研究科内に学術研究委員会を設置し、環境科学技術シンポジウム開催や英文ジャーナル(Journal of Environmental Science for Sustainable Society)発行の体制を強化するとともに、組織的な大学院教育改革推進プログラムや学生奨励研究費を活用した大学院学生の研究支援体制を構築する。 ③引き続き岡山大学ユネスコチェアを中心として、持続発展教育(ESD)に関する国際拠点形成を行うとともに、開発途上国の環境保全に関する国際連携を展開する。 ④循環型社会形成と持続発展教育(ESD)を中心テーマとして、「学都・岡山大学」にふさわしい環境学の研究拠点形成を図る。	①岡山大学ユネスコチェアや大学院GPの事業と連携しながら、アジア・太平洋地域における廃棄物マネジメント研究や専門家養成を実施した。また、平成22年度概算要求において採択された「学官パートナーシップによるアジア・太平洋諸国を対象とした廃棄物マネジメントの実践的教育研究」による新たな拠点形成事業を開始し、キックオフ会議、アジア太平洋諸国における協力事業、市民広報事業、年度末の成果報告国際会議等を実施した。 ②平成23年1月に第6回環境科学技術シンポジウムを海外参加者15名を含む国際会議として実施し、博士後期課程学生11名が英語による研究報告を行った。英文ジャーナルJESSIについては、発行を継続している。また、研究科に学術研究委員会を設置して、博士後期課程学生の研究支援体制を構築し、取り組みを継続的に強化している。 ③岡山大学ユネスコチェア及び大学院GPによる事業として、ESD国際シンポジウム等を開催するとともに、ユネスコ本部、国連大学等が主催するESD専門家会議に岡山大学ユネスコチェア関係者が招聘された。また、中国、インドネシア、バングラデシュ、ベトナム、インド、グアム、パラオ等において、現地政府、大学、NGO等と協力して、環境保全や保健衛生に関する国際協力事業を実施した。以上に加えて、岡山地域の行政機関、大学、小中高校、NGO、NPO等と協働して、循環型社会形成及び持続発展教育に関する研究拠点形成を継続している。
	達成度: ④ 3 2 1	
社 会 貢 献	①引き続き岡山大学ユネスコチェア、廃棄物マネジメント研究センター等の拠点組織を活用しながら、持続発展教育(ESD)及び環境分野における国際的視野をふまえた社会貢献活動を促進する。 ②地域の行政、企業、NPO、NGO、市民団体等の機関と協力し、持続可能な地域社会の形成に向けた社会貢献活動を促進する。 ③廃棄物マネジメント研究センターを中心として、平成22～24年度特別経費「学官パートナーシップによるアジア・太平洋諸国を対象とした廃棄物マネジメントの実践的教育研究」による事業を推進し、廃棄物分野における社会貢献及び開発途上国への貢献を強化する。	①国連大学からESD拠点地域(RCE)に指定されているRCE岡山の関係機関と協力してESD国際シンポジウム等を開催し、途上国の環境専門家や行政関係者を招聘して、持続可能な社会に向けた環境政策や教育政策の課題を討議した。また、廃棄物マネジメント研究センターでは、グアム、パラオ、ベトナム、マレーシア、インドネシア等のアジア・太平洋諸国において、廃棄物マネジメント分野の国際協力事業を展開している。 ②岡山大学ユネスコチェアは、ESD拠点地域(RCE)であるRCE岡山の主要構成機関の1つであり、地域の行政機関、企業、NPO、NGO、市民団体等との協働により、ESDを通じた持続可能な地域形成に取り組んでいる。岡山市では、岡山大学ユネスコチェア等との連携実績を受けて、「国連ESDの10年」最終年会議に向けたこの取り組みを強化している。 ③廃棄物マネジメント研究センターでは、平成22年度概算要求において採択された「学官パートナーシップによるアジア・太平洋諸国を対象とした廃棄物マネジメントの実践的教育研究」の下で、岡山市エコ技術研究会等の地域機関と共同して、廃棄物マネジメント分野における社会貢献活動や国際協力事業を推進している。
	達成度: ④ 3 2 1	
評 価 の 客 観 的 指 標 ・ 定 義	事 項	定 義 (抜 粋)
	学部入試倍率	評価年度の前年に実施した入試と評価年度に実施した入試の志願倍率 算出方法:前期入試、後期入試、AO入試及び推薦入試毎及び各入試の合計により算出した「志願者÷募集人員(小数点3位を四捨五入)」の数値
	大学院充足率	評価年度と評価年度の翌年度の充足率 算出方法:4月入学者の「入学定員÷入学者数(小数点3位を四捨五入)」の数値。
	留年・休学・退学者数	評価年度と評価年度の翌年度の留年・休学・退学者数 留年:正規の在学年数を経過したにも関わらず卒業延期となっている者
	就職率	評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。
	科研費申請率、科研費採択率、採択金額	
	共同研究件数、受託研究件数、受入金額	評価年度の前年と評価年度に実施しているとして公表した共同研究及び受託研究件数、受入金額
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点を記載してください。 平成22年度は、岡山大学ユネスコチェア、大学院GP等のプロジェクト推進を通じて、教育、研究、社会貢献の各面において、平成21年度組織目標に対する十分な成果を上げることができたと判断する。また、平成22年度概算要求において採択された「学官パートナーシップによるアジア・太平洋諸国を対象とした廃棄物マネジメントの実践的教育研究」が開始され、社会貢献・国際連携の取り組みが一層強化された。ただし、客観的指標については、博士後期課程の学生充足率、外部資金獲得等が目標を下回る結果となっている。この理由として、この数年は退職教員が続き、教員の入れ替えが多かったことが上げられる。平成23年度は、博士後期課程学生定員の充足率向上や教員個人レベルでの外部資金獲得増に向けて鋭意取り組んでいくとともに、平成24年度に予定している自然科学・環境学系大学院改組に向けた取り組みを強化する。さらに、平成22年度に引き続き、岡山大学ユネスコチェア、廃棄物マネジメント研究センター等の事業を通じて、環境科学分野やESDにおけるアジア・太平洋地域の大学・研究機関、行政機関との連携を一層強化し、「学都・岡山大学」にふさわしい教育・研究拠点形成を目指していきたい。		
【達成度】④非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する		
注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。		